

【成 分】 (1包 1.5g 中)

成分名	含量	作用
イソプロピルアンチピリン	150mg	優れた解熱作用と鎮痛効果を有し、アセトアミノフェンと共に、痛みによく効きます。
アセトアミノフェン	250mg	痛みを感じる中枢に働きかけ、痛みの伝わりをブロックするとともに、解熱作用を有します。
アリルイソプロピルアセチル尿素	60mg	鎮静作用があり、鎮痛効果を高めるために配合されています。
無水カフェイン	50mg	頭痛緩和作用を有します。
カンゾウ(甘草)エキス	150mg (原生薬換算量 750mg)	胃粘膜を保護して、胃の荒れを防ぎます。

添加物としてトウモロコシデンプン、乳糖、ヒドロキシプロピルセルロース、D-マンニトール、クロスカルメロースNa、ステアリン酸Mg、セルロース、白糖、無水ケイ酸、メタケイ酸アルミン酸Mgを含有します。

保管及び取扱い上の注意

- (1)直射日光のあたらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
- (2)小児の手のとどかない所に保管してください。
- (3)他の容器に入れかえないでください。(誤用の原因になったり品質が変わる。)
- (4)使用期限を過ぎた製品は、服用しないでください。

問い合わせ先

- 1) 購入した薬局・薬店
- 2) お客様相談室

住所：〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-22-14
電話：03 (3986) 0613
受付時間：9:00~17:00 (土、日、祝祭日を除く)



製造販売元

全薬工業株式会社

東京都豊島区東池袋3-22-14
営業所 東京都文京区大塚5-6-15
<http://www.zenyaku.co.jp>

服用に際して、この添付文書を必ずお読みください。
また、必要な時に読めるよう大切に保管してください。

速く治したい…

頭痛・生理痛に **セミドン** 顆粒

解熱鎮痛薬

①速さと効き目を考えた“速効処方”

イソプロピルアンチピリン



アセトアミノフェン



優れた解熱鎮痛効果を発揮！

②胃への負担を考えた“やさしい処方”→胃粘膜保護成分カンゾウ(甘草)エキス配合。

③錠剤の苦手な方にものみやすい顆粒タイプ。

【使用上の注意】



してはいけないこと



(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる。)

1. 次の人は服用しないでください。

- (1)本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (2)本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。

2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください。

他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬、乗物酔い薬

3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください。

(眠気があらわれることがある。)

4. 服用時は飲酒しないでください。

5. 長期連用しないでください。



ついでに「せみせん」…

相談すること



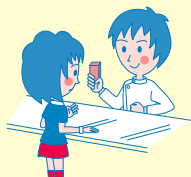
1. 次の人は服用前に医師、歯科医師又は薬剤師に相談してください。

- (1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
- (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
- (3) 高齢者。
- (4) 本人又は家族がアレルギー体質の人。
- (5) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (6) 次の症状のある人。
むくみ
- (7) 次の診断を受けた人。
高血圧、心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この添付文書を持って医師、歯科医師又は薬剤師に相談してください。

- (1) 服用後、次の症状があらわれた場合。

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	悪心・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい



まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。
その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐにじんましん、浮腫、胸苦しさ等とともに、顔色が青白くなり、手足が冷たくなり、冷や汗、息苦しさ等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群)、 中毒性表皮壊死症 (ライエル症候群)	高熱を伴って、発疹・発赤、火傷様の水ぶくれ等の激しい症状が、全身の皮膚、口や目の粘膜にあらわれる。

〔次ページにつづく〕

肝機能障害	全身のだるさ、黄疸(皮ふや白目が黄色くなる)等があらわれる。
偽アルドステロン症	尿量が減少する、顔や手足がむくむ、まぶたが重くなる、手がこわばる、血圧が高くなる、頭痛等があらわれる。
ぜんそく	

- (2) 5～6回服用しても症状がよくなる場合。


【効能・効果】

- 頭痛・生理痛・歯痛・咽喉痛・肩こり痛・腰痛・神経痛・関節痛・抜歯後の疼痛・耳痛・筋肉痛・打撲痛・ねんざ痛・外傷痛・骨折痛の鎮痛
- 発熱・悪寒時の解熱

【用法・用量】

次の1回量を1日3回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用してください。

服用間隔は4時間以上おいてください。

年 齢	15才以上	15才未満
1回量	1包 	服用しないこと

〈用法・用量に関連する注意〉

本剤は水又はぬるま湯で服用してください。

水

ぬるま湯

服用についてのアドバイス



- ① 水又はぬるま湯で服用しましょう。
コップ1杯(150mL程度)の水又はぬるま湯と一緒に服用しましょう。
薬の成分が水で薄められ、粘膜への刺激を少なくします。
- ② 空腹時を避けて服用しましょう。
空腹時、解熱鎮痛成分は胃を刺激することがあります。食物が胃に入っていれば、食物が胃を保護するので、解熱鎮痛成分の胃に対する刺激が少なくなります。
- ③ 頭痛の場合は、痛み始めたら早めに服用すると効果的です。